

## ■9月20日

スカイマーク、米子空港—新千歳、羽田、那覇線の3路線も計画、2014年11月

今年12月から米子空港に就航することを18日に発表したスカイマークの西久保慎一社長は、19日鳥取市内での記者説明会で、来年新たに米子から3路線の新規就航先計画を明らかにした。

成田、神戸、茨城に続き、2014年11月に米子—新千歳、米子—羽田、米子—那覇の3路線の就航を計画しているという。

47NEWSによると、西久保社長は米子路線を充実させる理由について「米子市や松江市を含む空港周辺は人口も多く、十分なマーケットがある。われわれの存在価値を発揮できる」と説明した。また「空の道ができることで、観光や産業で都市間の結びつきが生まれるはず」とも語った。

(47NEWS)9/19

<http://www.47news.jp/CN/201309/CN2013091901002149.html> (->

<http://www.47news.jp/CN/201309/CN2013091901002149.html>)

スカイマーク、米子—成田・神戸・茨城線、目標搭乗率60%、2年後70%

スカイマークの西久保慎一社長は19日、鳥取市内で記者会見し、鳥取県の米子空港と成田、神戸、茨城各空港を結ぶ3路線を12月20日から運航すると発表した。就航から2カ月間は格安なキャンペーン運賃を適用する。さらに来年11月から羽田、新千歳、那覇の3路線も加え、1日1往復の運航を目指す計画を明らかにした。

成田と神戸便は1日2往復、神戸経由の茨城便は同1往復する予定。運航機材はB737—800(177人乗り)を使う。運賃について西久保社長は「成田便は1万円から1万5000円、神戸便は5000円から1万円になる」とした。また、就航キャンペーン運賃は成田便が9800円、神戸便は4800円に設定する見通し。

搭乗率は採算ラインの60%が目標で、2年後には年間平均70%を目指す。空港スタッフは地元雇用を原則とし、約25人の採用を検討している。

中国地方でまず米子空港への就航を決めた理由を西久保社長は「周辺人口が70万人から80万人とマーケットが大きい。山陽は新幹線や他の航空会社との競合もある」と説明した。

(日経)9/20

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO59931230Z10C13A9LC0000/> (->

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO59931230Z10C13A9LC0000/>)

(読売新聞)9/20

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tottori/news/20130919-OYT8T01286.htm> (-> [http://www.yomiuri.co.jp/e-](http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tottori/news/20130919-OYT8T01286.htm)

[japan/tottori/news/20130919-OYT8T01286.htm](http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tottori/news/20130919-OYT8T01286.htm))

エバー航空、新潟—台北線定期便再開、12月4日から週2便

エバー航空が新潟—台北線の定期便を12月4日から週2往復で再開することが18日、分かった。冬季の需要増加が見込まれるため、定期便の運航は3月末以来、8カ月ぶりとなる。

同社日本支社によると、定期便は運休前と同様に毎週水、土曜に12月4日から来年3月29日まで運航するが、4月以降は未定。

同路線はことし1月に就航し、日本人旅行客の需要が堅調で搭乗率は7割以上だったが、台湾からの夏場の需要が見込めず、3月末で運休した。5月以降は月2往復程度のチャーター便を運航し、ツアー客などに対応していた。

(新潟日報)9/19

<http://www.niigata-nippo.co.jp/news/national/20130919067438.html> (-> <http://www.niigata-nippo.co.jp/news/national/20130919067438.html>)

中国南方航空、福岡—広州線運航再開、週3便

中国南方航空は、福岡—広州線の運航を10月28日から週3便で再開することが分かった。同路線は2012年10月に運休していたが、需要が回復傾向にあることから再開を決めたという。使用機材はエアバスA319型機で、座席数はビジネス8席、エコノミー113席。

また、同社では広州をハブとして以遠路線での需要取り込みを進めており、広州市では今年5月に、広州白雲国際空港について72時間以内の滞在であれば外国人ビザを免除する政策を許可している。

(トラベルビジョン)9/19

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58917> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58917>)

佐賀空港、無料駐車場の拡張を計画

佐賀県は、佐賀空港の無料駐車場(789台)の拡張に乗り出す。昨年1月に上海線が就航し、今後もソウル線、成田線が就航する見込みで、現在の駐車場では手狭になる恐れがあるという。また、ターミナルまで徒歩で移動できる無料駐車場は、空港利用のセールスポイントのひとつであり、今後の需要見込みを今年度に調査・検討し、立体化も視野に来年度中の拡張を目指したい考えだ。読売新聞が報じた。

県によると、ターミナルに最も近い第1駐車場(431台)では、上海線就航後、2日に1回の頻度で満車状態になり、第2駐車場(283台)、第3駐車場(63台)など全体で、空きスペースが60台ほどしか残らないという。

関係者によると、増設は約400台分。県は、拡張整備に必要な事業費を明らかにしていないが、「2階建ての立体駐車場を整備すれば、10億円前後かかるだろう」と議会側に説明しているという。

(読売新聞)9/19

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/saga/news/20130918-OYT8T01440.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/saga/news/20130918-OYT8T01440.htm>)

スクート(LCC)、関空への乗り入れを計画、ボーイング787で

(トラベルビジョンによると)

スクートは2014年11月を目標に関空—シンガポール線の運航をめざす。TZは2014年10月からボーイングB787-8型機とB787-9型機をそれぞれ10機、2年に渡り順次導入していく計画で、14年11月から、新規材による新規路線就航を予定している。同社日本・韓国支社長の坪川成樹氏はJATA旅博2013でトラベルビジョンの取材に応え、「社内調整もあるが、関空線を飛ばしたいと考えている。関空側と話をはじめています」と話した。

関空／シンガポール線はデیلیーで運航する予定。直行便か、いずれかの都市を経由するかに関しては、「どちらが日本の旅行者にとってよいものか検討している」と明言を避けた。

また、スクートでは新機材で日本の地方都市2、3ヶ所から、新規路線を開設したい考えだ。坪川氏は「週4便ないと、旅行会社がパッケージを作りづらい」とし、「旅行会社のメリットを考えながら便数を検討し、(地方路線は)最低でも週4便は飛ばしたい」と述べた。

(トラベルビジョン)9/19

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58926> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58926>)

スクート(LCC)、成田線、6-8月、平均搭乗率約96%、日本人が5割利用

スクートの運航する、成田—台北—シンガポール線の6月から8月の3ヶ月の平均ロードファクターは約96%と好調であることが分かった。

利用者の内訳は、日本人旅客は約5割で、このうち4割程度が台湾、1割から2割がシンガポールまでの旅客であり、「シンガポールへの需要が当初に比べて増加してきた」という。

(トラベルビジョン)9/19

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58926> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58926>)

ルフトハンザ航空、ボーイング34機・エアバス25機を発注、総額140億ユーロ

ルフトハンザ航空は、ボーイング機を34機、エアバス機を25機購入することを明らかにした。計59機の発注は同社の一括発注としては過去最大。総額は140億ユーロとなる。最初の納入は2016年になる見通し。同社は、今後、既存のボーイング747—400型機とエアバスのA340—300型機を2025年までに段階的に廃止を行う。

現在、ルフトハンザは全面的な機材の刷新を進めており、燃料費削減と競争力強化を狙い最新型ジェット機に投資しており、今回発注したのはボーイング777—9X型機とエアバスA350—900型機。古い機体と比較すると、消費燃料とユニットコストが約20%減少する見通しだ。

(ロイター)9/19

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE98I08M20130919> (->

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE98I08M20130919>)

タタ・サンズ、シンガポール航空、インドに新規航空会社、ニューデリーに本社

インド財閥大手タタ・グループの持ち株会社タタ・サンズとシンガポール航空は19日、共同出資の航空会社を新設することで合意したと発表した。

両社はインド政府に設立許可の申請書を提出。LCCではなく、サービス重視の通常の航空会社を設立する。新会社はタタが51%、シンガポール航空が49%を出資し、本社は首都ニューデリーに置く。出資額や運航開始時期は明らかにしなかった。

(日経)9/19

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1904E\\_Z10C13A9FF2000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1904E_Z10C13A9FF2000/) (->

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1904E\\_Z10C13A9FF2000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM1904E_Z10C13A9FF2000/))

(共同通信)9/19

<http://www.sponichi.co.jp/society/news/2013/09/19/kiji/K20130919006649700.html> (->

<http://www.sponichi.co.jp/society/news/2013/09/19/kiji/K20130919006649700.html>)